資料１

平成２９年度決算のポイント

千葉開府 since 1126 Road to 900

千葉市

目　　次

平成２９年度決算の状況・・・・・・・・・・・１

平成２９年度決算の特徴・・・・・・・・・・・２

主な財政指標の推移・・・・・・・・・・・・・７

平成２９年度決算の状況

概況

【会計別歳入歳出決算額及び実質収支】　（単位：百万円）

会　計		歳入決算額	歳出決算額	形式収支	翌年度へ繰越すべき財源	実質収支
一般会計		438,763	434,931	3,832	680	3,152
特別会計（14会計）		372,827	369,781	3,046	23	3,023
会　計		**収入額**	**支出額**	**形式収支**	**当年度純損益（税抜）**	**累積欠損金（税抜）**
企業会計（3会計）	収益的収支	53,305	51,444	1,861	1,390	
	病院	20,341	21,502	△ 1,161	△ 1,161	△ 8,094
	資本的収支	19,274	30,439	△ 11,165		
全会計合計		884,169	886,595			

※各会計毎に表示単位未満を四捨五入しているので、合計と一致しない場合がある。

※企業会計の資本的収支の不足額は、内部留保資金等で対応した。

平成２９年度決算の特徴①

決算規模

○一般会計は、歳入・歳出とも過去最大の規模

歳入　4,388億円（対前年度比　349億円増　8.6%増）

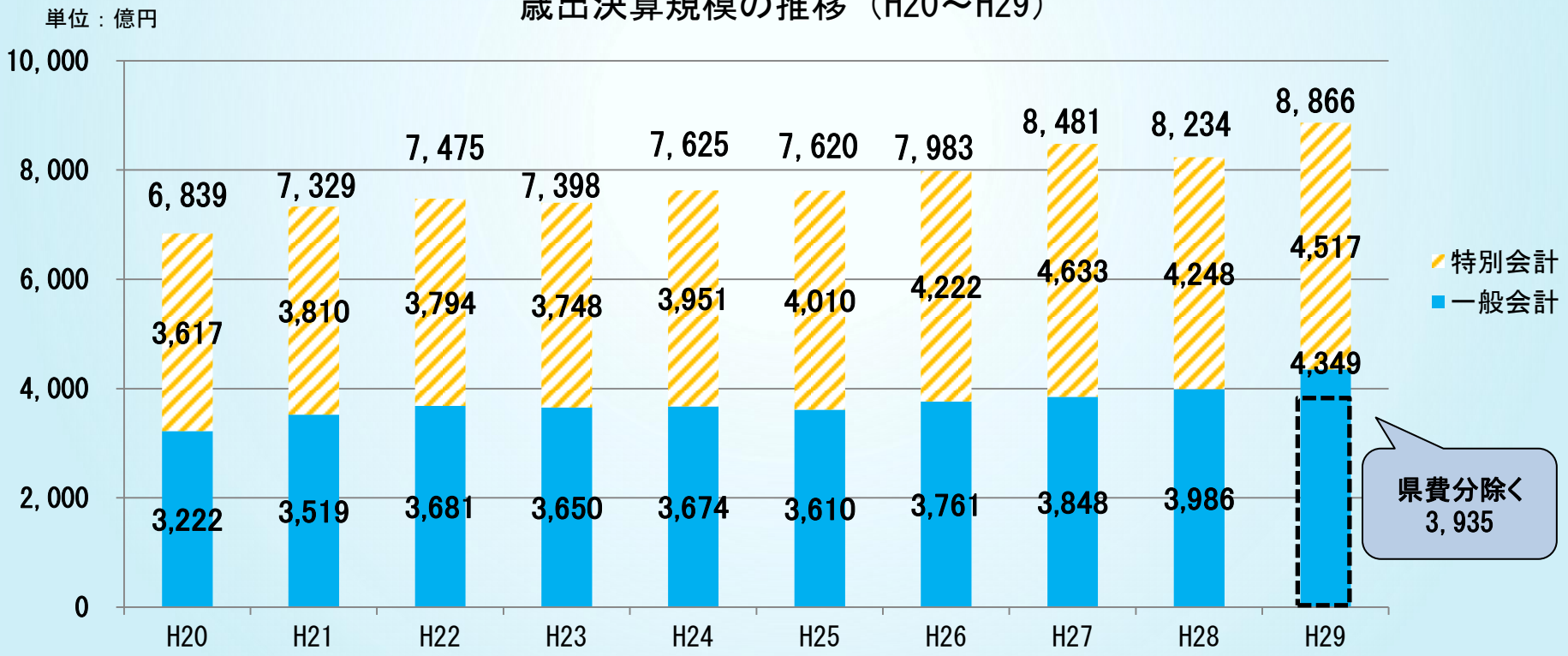
歳出　4,349億円（対前年度比　364億円増　9.1%増）

※県費負担教職員の給与負担等の移譲による影響を除くと前年度比減

歳入　3,961億円（対前年度比　78億円減　1.9%減）

歳出　3,935億円（対前年度比　50億円減　1.3%減）

歳出決算規模の推移（H20～H29）

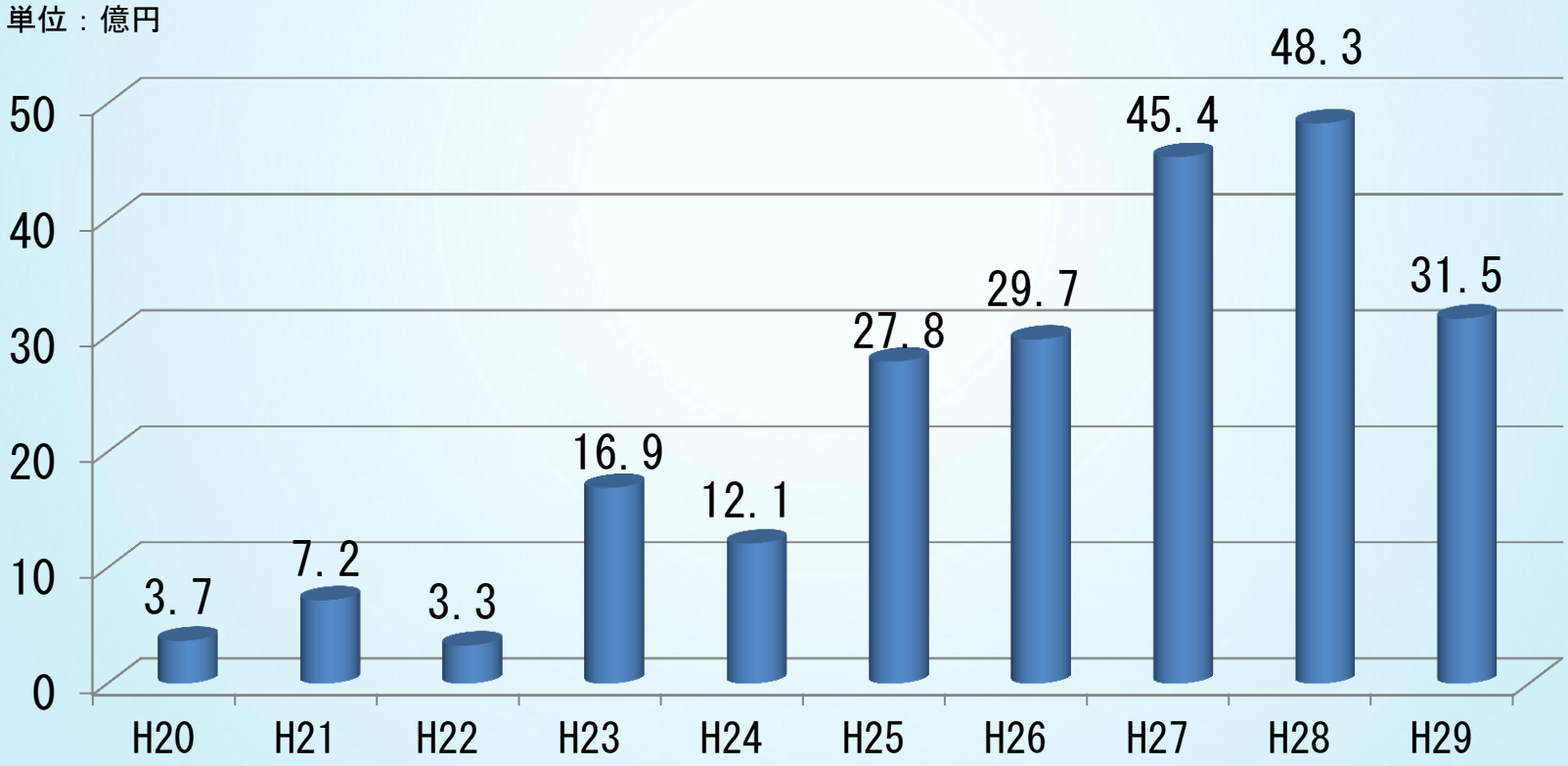


平成２９年度決算の特徴②

実質収支の確保

○一般会計では、市税や地方消費税交付金の増収などにより、
３２億円の実質収支（黒字）を確保

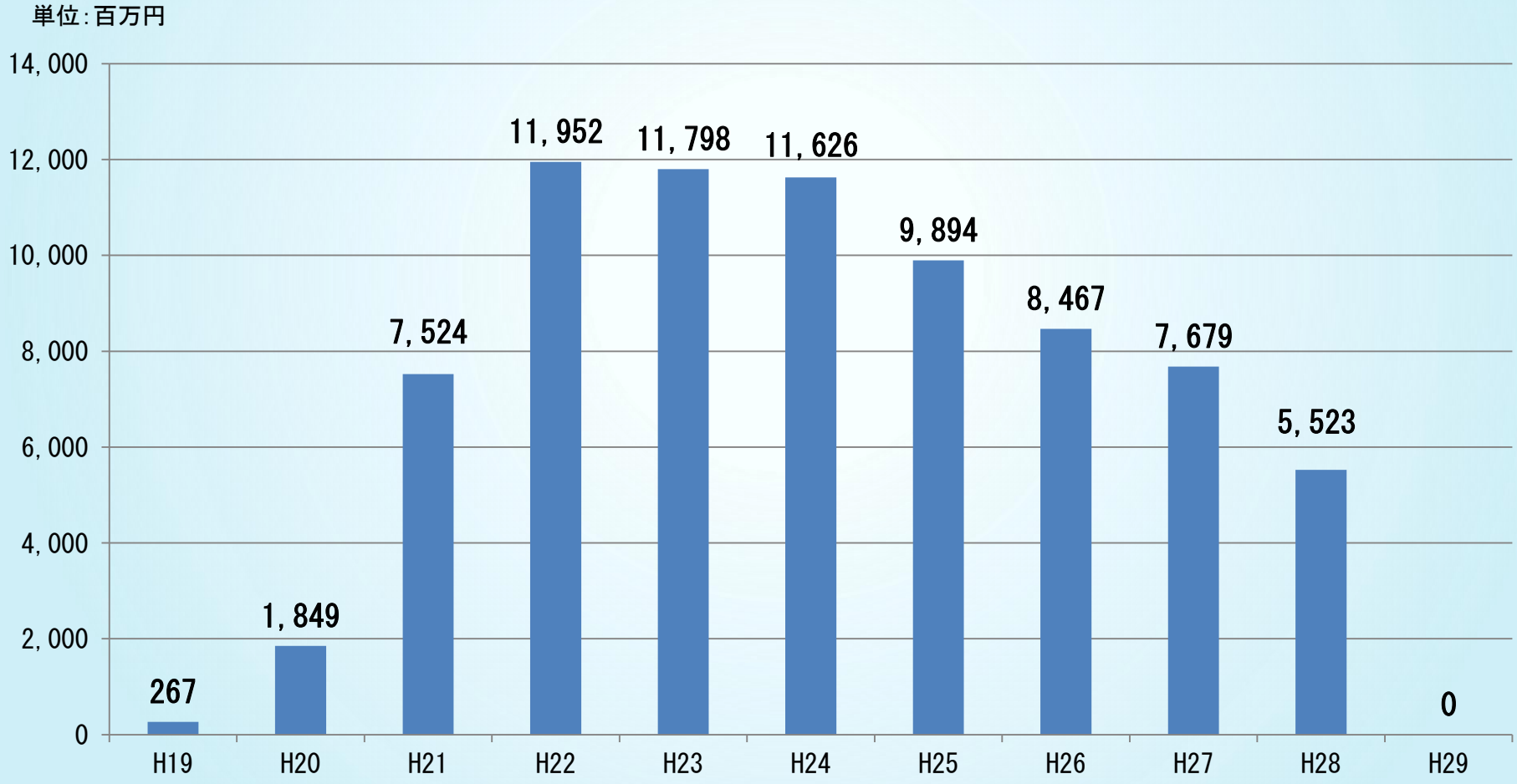
一般会計実質収支の推移（H20～H29）



平成２９年度決算の特徴③

国民健康保険事業累積赤字の解消

○平成１９年度から発生していた国民健康保険事業の累積赤字については、
アクションプランの推進や、一般会計からの繰入金の増などにより、
１１年ぶりに解消



平成２９年度決算の特徴④

主要債務総額の削減

○第２期財政健全化プラン（H26～H29）の主要目標である「主要債務総額」の削減目標を達成

目標　　平成24年度末比で1,000億円程度削減

取組結果　　〃　　1,299億円削減

【主要債務総額とは】

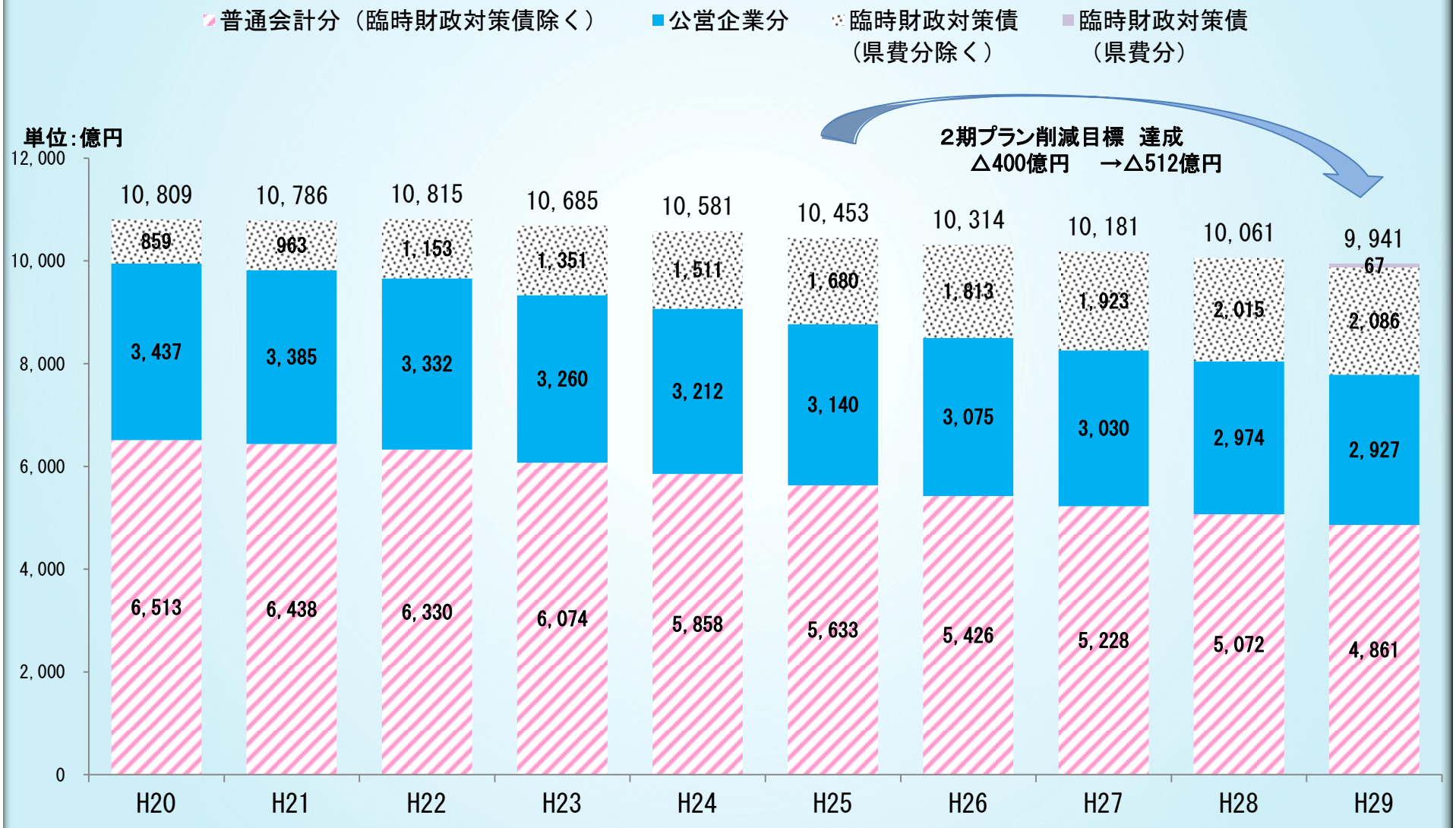
市の財政に大きな影響を与える４つの債務

- 建設事業債等残高（普通会計）
- 基金借入金残高
- 債務負担行為支出予定額（普通会計・建設事業分）
- 国民健康保険事業累積赤字額

平成２９年度決算の特徴⑤

市債残高の適正化

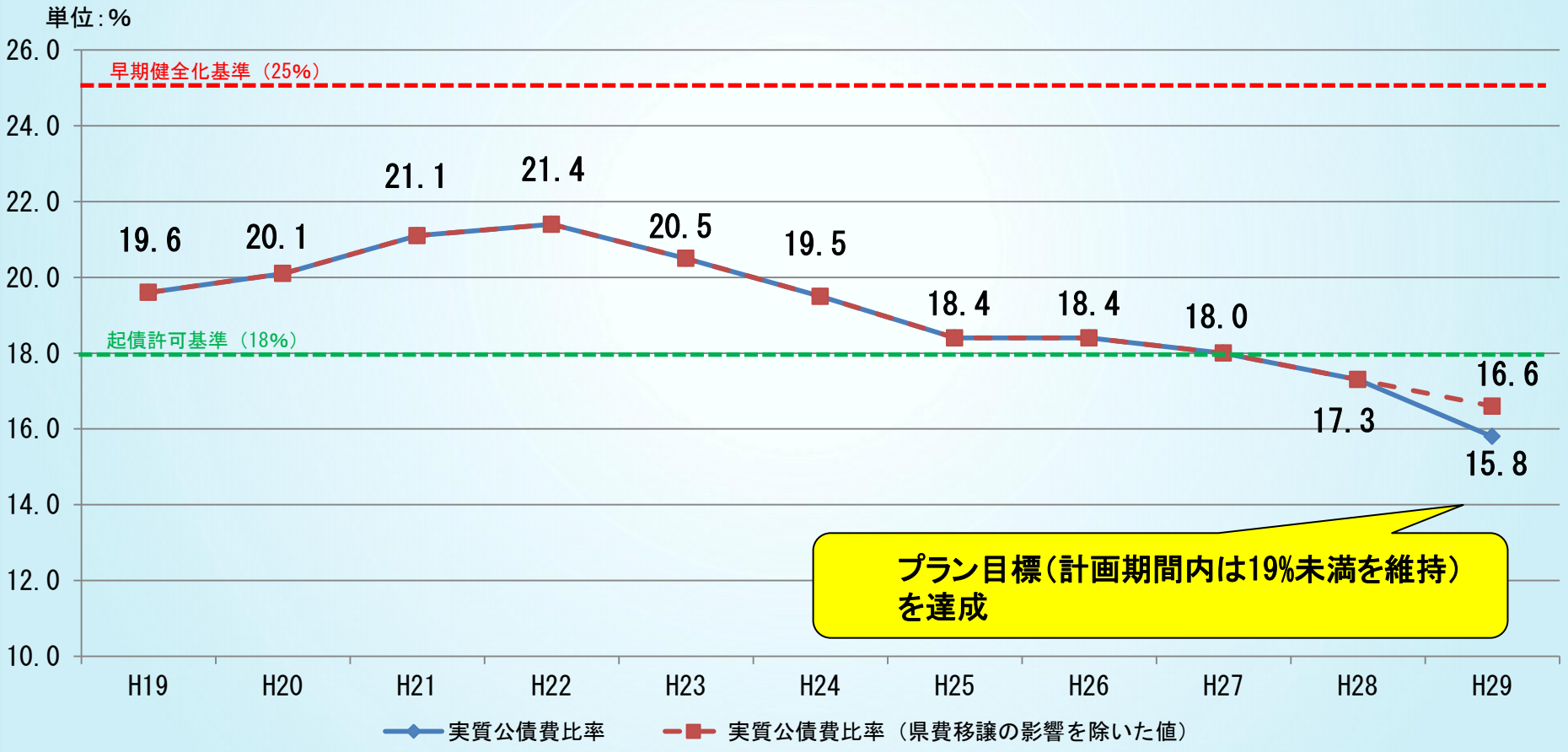
○２期プランの「市債残高（全会計）」の削減目標を達成
（平成２６年度から平成２９年度までの４年間で４００億円の削減）
○平成１６年度（９，９３６億円）以来、１３年ぶりに１兆円を下回る



主な財政指標の推移①

実質公債費比率
（公債費等（地方債の元利償還金等）の標準財政規模に対する割合）

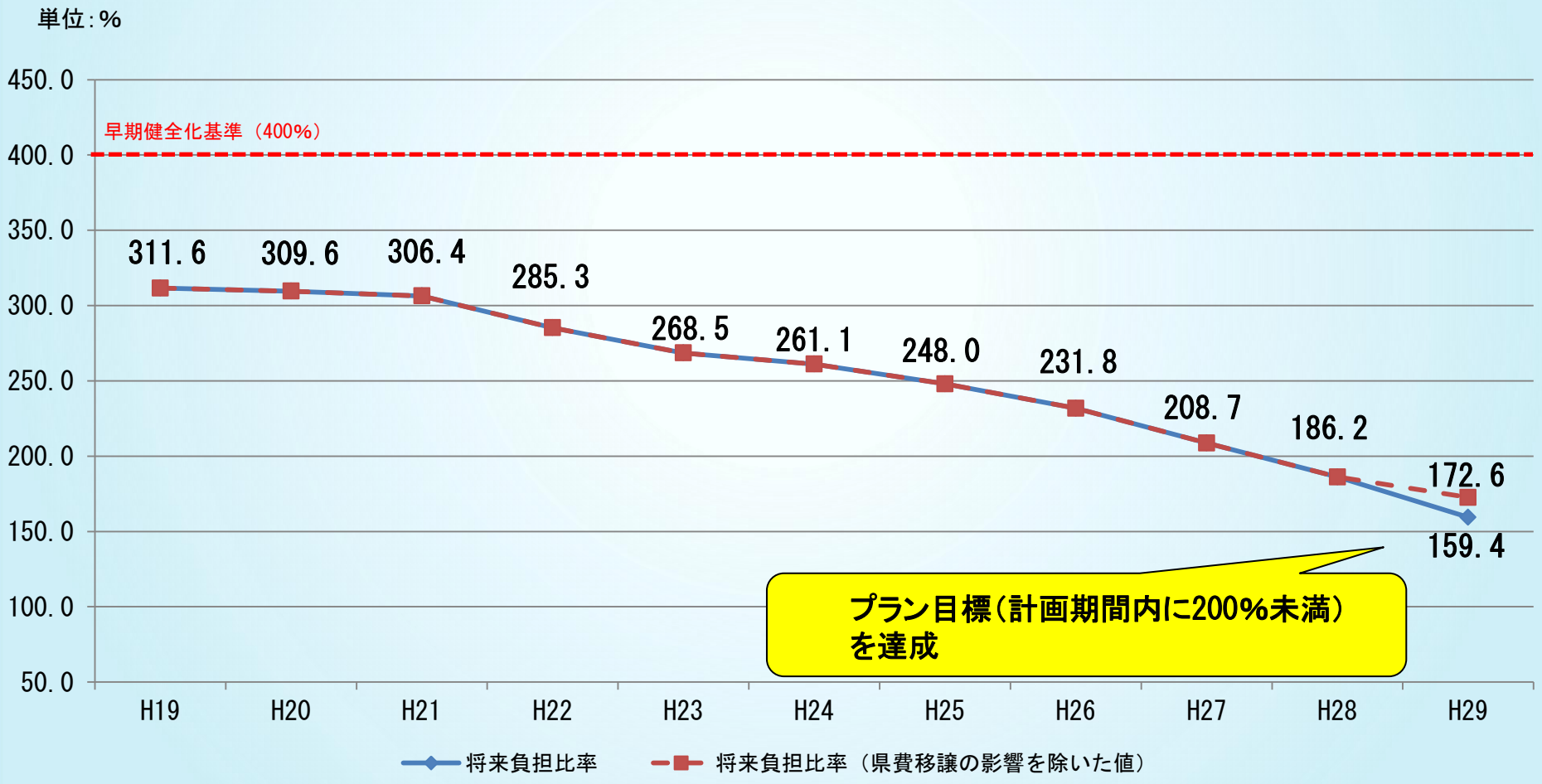
○「実質公債費比率」は、引き続き改善（15.8%、対前年度比△1.5P）
（※県費移譲の影響を除くと16.6%（対前年度比△0.7P））



主な財政指標の推移②

将来負担比率
（将来負担債務の標準財政規模に対する割合）

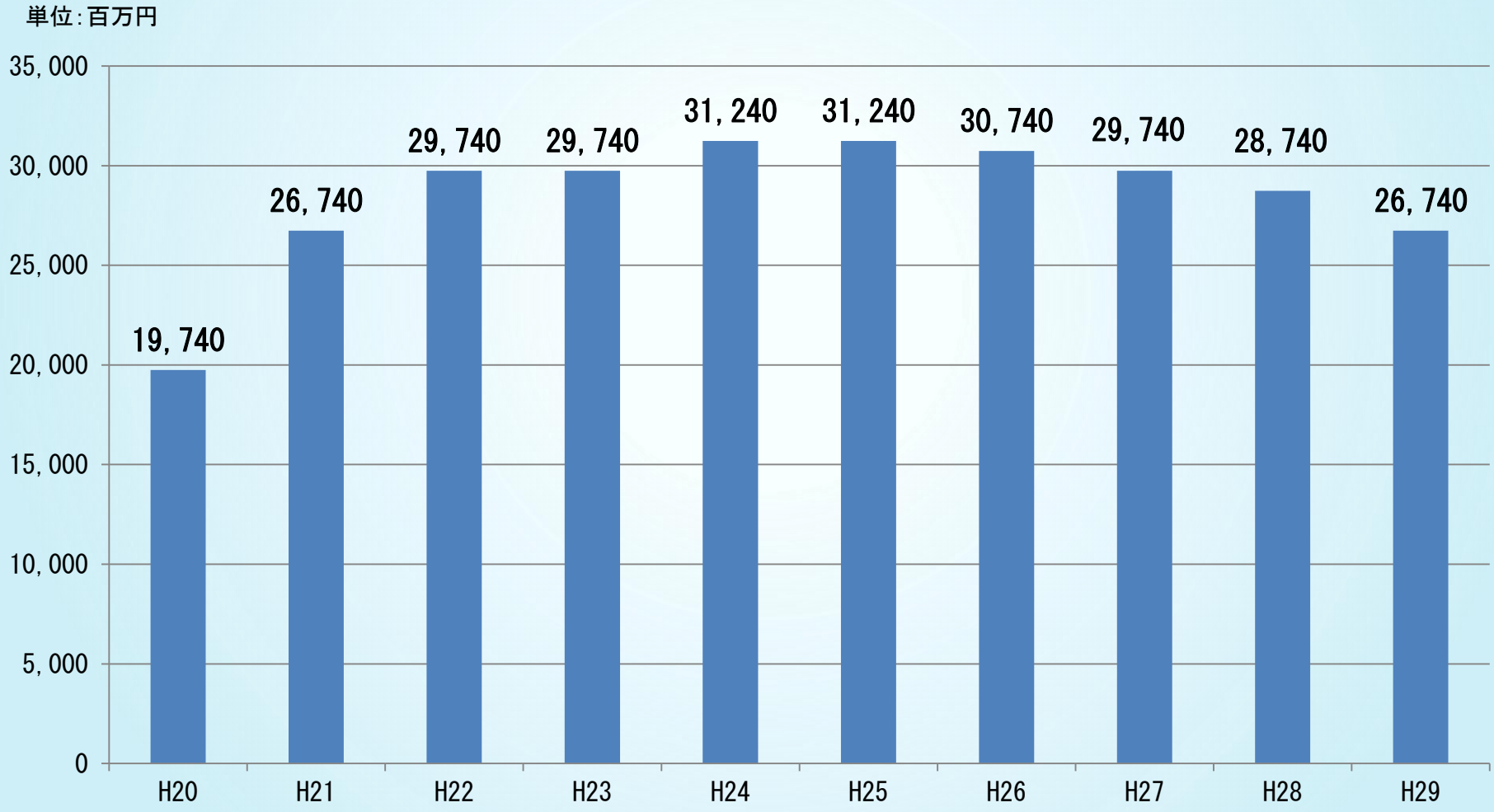
○「将来負担比率」は、引き続き改善（159.4%、対前年度比△26.8P）
（※県費移譲の影響を除くと172.6%（対前年度比△13.6P））



主な財政指標の推移③

基金借入残高の削減

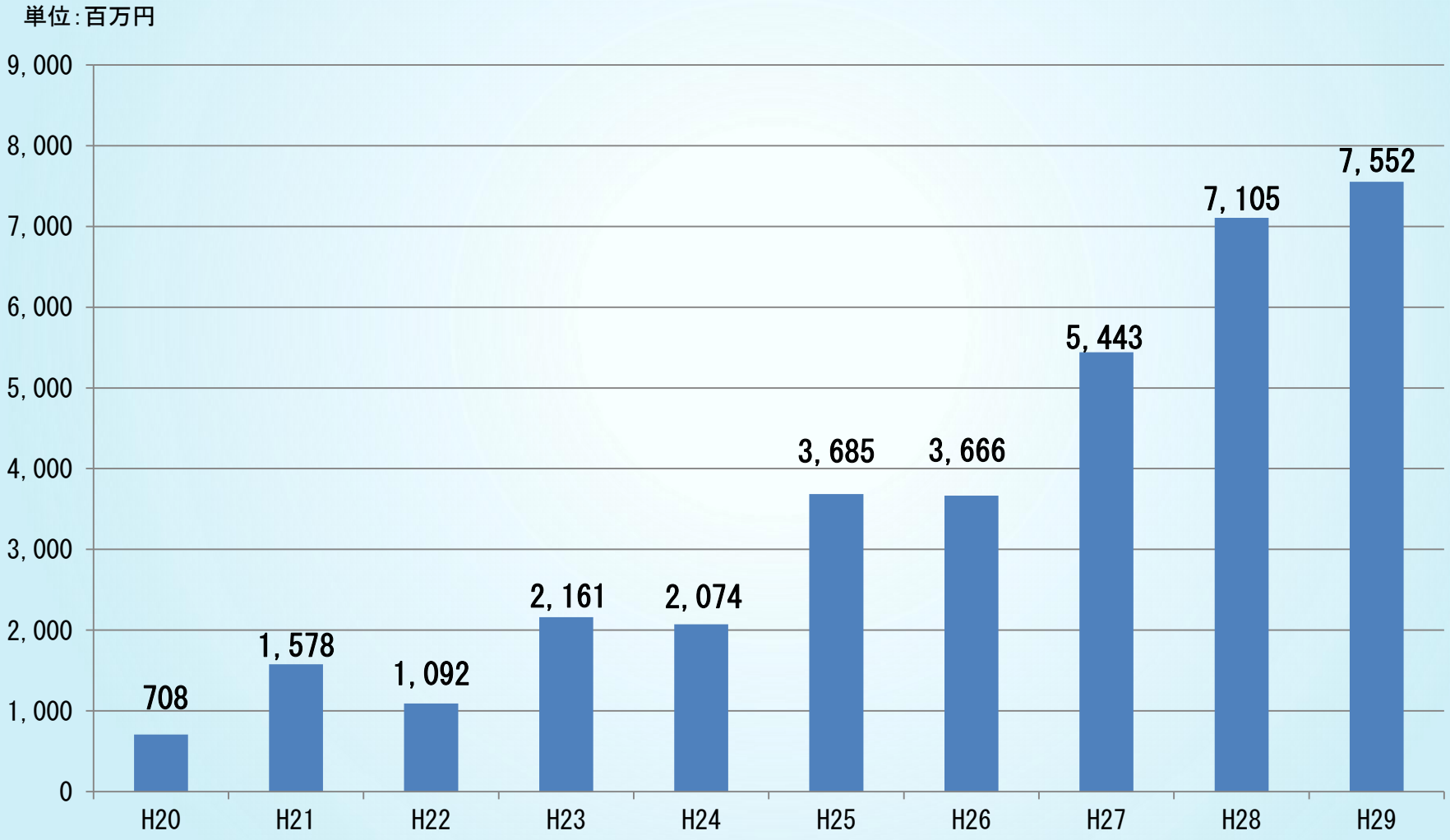
○主要債務総額のうち、一般会計の収支均衡を図るために実施している
基金借入の残高は、着実に削減（対前年比△20億円）



主な財政指標の推移④

財政調整基金

○年度間の財源調整を行うための「財政調整基金」残高は着実に回復



主な財政指標の推移⑤

資金不足比率
（公営企業ごとの資金の不足額の事業規模に対する割合）

○病院事業において、平成２８年度に引き続き資金不足比率が発生
　第４期病院改革プランに基づき、経営改善の取組みを推進し、
　資金不足比率の解消を目指す
○他の５会計では資金不足が生じていないため、比率の発生はなし

（単位：%）

区分	法適用			法非適用		
	病院事業	下水道事業	水道事業	農業集落排水事業	地方卸売市場事業	動物公園事業
平成29年度	0.9	－	－	－	－	－
平成28年度	0.1	－	－	－	－	－
経営健全化基準	20.0					